図書だより

２０１４年５月
倉吉東高図書委員会

教育実習生の先生方に聞きました「私のおすすめの１冊を紹介します！」

現在、教育実習で倉吉東高に来ておられる８名の先生方に、「おすすめの１冊」を紹介していただきました。図書館でも展示していますので、興味のある人はぜひ手にとってみてくださいね。

浦田麻紀子先生（家庭科）

『心がときめく間取りアイデア図鑑』　エクスナレッジ

「まわりの自然を感じながら暮らしたい」「多世帯で仲良く暮らしたい」「趣味を楽しめる暮らしをしたい。」など、住みよい住まいのかたちは人それぞれです。

そんなひとりひとりの思いを形にした住まいの間取りが、全１２０戸紹介されている本です。建築や住居に興味のある人はもちろん、そうでない人も、ぜひ自分の将来の暮らしを思い浮かべながら手にとってみてください！

岡本聡先生（保健体育）

『上昇思考』長友佑都著　角川書店

この本には、どんな人にも共通し活用できるポジティブシンキングの重要性に関して、日頃厳しい環境で鍛えて戦っている人ならではの体験から導き出された答えがあります。私は特に「一流の人間でなければ一流のプレイヤーになれない」という言葉が心に残っています。どんなに上手いプレイヤーでも、素行がよくなければ良い印象は残らないでしょう。みなさんもこの本を読んで一流の人間になりましょう。

岡本春奈先生（理科）

『陰陽師』夢枕獏著　文藝春秋

平安時代の陰陽師・安倍晴明の活躍を描いた伝奇小説。同時代の貴族で楽人の源博雅という人物と共に、生々しい都の鬼やらの魑魅魍魎たちと関わる物語です。少々古文的、また行間を読むような特徴的な文章表現ですが、「羅生門」「今昔物語」など授業で触れた事のあるような言葉が出てくる本なので、さっくりと読めるのではないかな、と思います。短編集の様に区切りがあって読み易いので、授業とは違った角度で見てみて欲しいです

栗原杏奈先生（英語）

『何者』朝井リョウ著　新潮社

第１４８回直木賞受賞作の、ルームシェアをきっかけに知り合った大学生たちが「シューカツ」を通した人間関係や自己同一性に葛藤する物語です。インターネットやＳＮＳが当たり前となった現代の大学生や就職活動の現実やイタさを言い当てられたようでドキッとしますが、それが痛快でもあります。その面白さにのめり込んでしまいました。大学生の真実を覗いてみてください。

小原和樹先生（地歴・公民）

『階層化日本と教育危機　－不平等再生産から意欲格差社会へ』

苅谷剛彦著　　有信堂

教育と階層化を結び付けて論じている苅谷剛彦は、教育学部に進む人はもちろん、そうでない人にとっても必読書と言ってよいと思います。本書は、その中でも「教育学」、特に「教育社会学」に関わる概念がたくさん詰め込まれており、豊富なデータもあいまって、しばしば抽象的な経験談として語られる教育を異なる視点から覗くことができます。難しいなと思ったら、新書・文庫など、他の著作と併せて読んでみるのがオススメ！

中野茜先生（国語）

『注文の多い料理店』宮沢賢治著　新潮文庫

私がおすすめする本は宮沢賢治の『注文の多い料理店』です。みなさんも一度は読んだことがあると思います。この作品の中で木が「ごとんごとん」と鳴るという情景が描かれているのですが、「ごとんごとん」と鳴っている木と聞いてどのような情景を思い浮かべましたか？　知っている作品を、今までとは少し違う視点（表現に注目してみるなど）で読んでみると、新しい発見ができておもしろいですよ。

山上結先生（数学）

『数学ガール』結城浩著　ソフトバンククリエイティブ

数学が趣味の高校２年生「僕」とそのクラスメイトのミルカ、数学に興味を持つ後輩のテトラ、「僕」の従妹の中学生ユーリの４人が数学を解きながら数学の世界を旅する話です。取り扱っている数学はかなり本格的で難解なものが多々ありますが、数学とライトノベルが融合されたような本なので小説を楽しむ感覚で読み進めることができます。数学好きな人はもちろん数学に苦手意識を持っている人にもぜひ読んでもらいたいです。

山本康次郎先生（理科）

『遺伝子はダメなあなたを愛してる』福岡伸一著　朝日新聞出版

日常生活のふとした疑問について、化学や生物学の知識を交えてわかりやすく説明されています。もしかしたら、普段自分が不思議に感じたことや興味を持ったことがどんな学問につながっているのか見つかるかもしれないです。すごく簡単に読めてしまうので、気になった部分だけでも読んでみるといいと思います（たぶん２，３分あれば一つ読めます）。理科が皆さんの好きな科目になることをちょっと期待してます。